

題材「最高学年としての役割」(第6学年)

〔事前指導 等〕

1 年間指導計画に示されている題材の指導内容の確認【学年会での打合せ】

教師1:「本学年の子どもたちは、様々な場面で自分の役割にきちんと取り組んでいます。よりよい学校にするために最上級生としてどうしたらよいかという意識はまだ高まっていないですね。」

教師2:「この子たちは、きっかけがもてればいろいろな場面で力を発揮することができると思います。今月の学級活動で、最高学年としての役割を見直せるようにしましょう。」

2 児童の実態調査の実施

質問:『6年生になって、何か不安はありますか。』

C1:「委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動で、うまくリーダーシップをとれるかどうか不安だな。書いておこう。」

3 児童の実態調査の集計と資料の準備(計画委員会)

C2:「みんなのアンケートを集計してみると、『最上級生として、どのように工夫して活動したらよいか分らず不安』と感じている人が多いことが分かるよ。」

C3:「そうだね。アンケート結果が分かりやすいように、グラフにしよう。」

C2:「下級生に、6年生にどんなことを期待しているかインタビューしてみよう。」



意図的、計画的な指導が学年・学校全体で行えるよう、年間指導計画に基づき、指導内容、指導方法を確認する。

実態調査やアンケートの項目は、指導のねらいに適したものを設定する。

事前の実態調査の集計や本時における集計結果の発表を計画委員の児童が担当できるようにするなど、活動内容(2)でも、児童が主体的に関われるように工夫する。

教師:「6年生に何を期待しているか、下級生にアンケートをとった結果がこれです。」

C12:「『やさしくしてほしい』とあるので、代表委員会のあいさつ運動で、低学年の子が通るときは少ししゃがんで目線を低くしてあいさつするようにしていきます。」

C13:「『いろいろなことを教えてほしい』とあるよ。委員会活動でも、いつもの活動以外に工夫した活動を提案して、実施していくとよいと思います。ほくは運動委員会なので、昼休みに鉄棒教室やなわとび教室を開くことを提案していきます。」

C14:「地域の方にもあいさつができると、下級生の手本になると思います。」

C15:「私も下級生の手本となるように、朝、交通指導員さんに元気にあいさつをしようと思います。きっと下級生も元気なあいさつができるようになると思います。」

C16:「最上級生としての役割を果たすことが、楽しくなってきそうだね。」

4 「個人目標の自己決定」と実践への意欲化

教師:「話し合ったことを参考にして、自分で取り組む目標をカードに書きましょう。振り返りの時に確認しやすいように、何をどれくらいするのか、〇回や〇分間など、数字を入れて具体的なめあてを立てていきましょう。」

C17:「私は縦割り班のリーダーとして、みんなが早くなじめるように積極的に声をかけます。また、縦割り班遊びの内容は、みんなの意見を聞きながら進めていきます。」

C18:「最高学年として、週に1回、1年生を誘って一緒に遊ぶようにします。」

C19:「朝の清掃活動では、きれいにしている場所以外にも、もう1か所きれいにします。」

教師:「友達のめあてを聞いて自分のめあてを見直したいと思う人は、直してみましょう。」
C20:「僕の『委員会活動を一生懸命頑張る』は、何をやるのかがよくわからないな。『運動委員会が開く鉄棒教室に毎週火曜日と木曜日に参加して下級生に教える』にしよう。」

課題解決に向けた話し合い(集団思考)では、個人目標の参考となるよう、できるだけ具体的な解決策を出し合っていく。

より多くの児童の意見が反映できるように、小グループで話し合う、全体で話し合うなど実態に応じて形態を工夫していく。



自分で決めた実践目標が十分な内容ではない場合(例えば、漠然としている、設定内容に難があるなど)は、修正できるように個別に指導する。

〔本時の展開〕

1 問題の把握

教師:「これがアンケート結果をまとめたグラフです。どんなことがわかりますか。」

C5:「『6年生になったことはうれしいけれど、最上級生としてどのように工夫して活動すればよいかよく分からない』と感じている人が多いことがわかります。」

C6:「私と同じ気持ちの人がこんなにいたのね。少し安心したわ。」

教師:「そこで今日は、『最高学年としての役割』について、みんなで話し合っ、一人一人の不安を解決できるようにしていきますよ。」



みんなが抱えている問題は、自分にとっても関係の深い問題であることに気付けるように展開する。

2 原因の追究

教師:「『仕事をよりよく工夫する』について、みなさんの満足度が低かったのは、どんな理由からだと思いますか。」

C6:「私は、委員会の活動などで、決められたことしかしていないからだと思います。」

C7:「工夫するといっても、正直言って、どうすればよいかよく分かりません。」

教師:「仕事がきちんとできることはすばらしいことです。ただ、最上級生としてどのようにリーダーシップをとればよいか分らずに困っている人が多いようですね。」

一人一人が自分の抱えている課題を確認し、それを本音で表現することで話し合いに切実感が生まれるので、把握した実態を課題意識が高まるように紹介していく。

3 解決策の話し合い

教師:「では、自分から工夫して活動している人は、その工夫を教えてください。」

C8:「毎朝の清掃活動は、他にも清掃できる所がないか探しながら活動しています。」

C9:「校務員の〇〇さんは、学校のいろいろなところを掃除してくれているから、どこを清掃したらよいか教えてくださいたいと思います。」

C10:「なるほど。そういうふうで工夫していくと、みんなが喜んでくれるだろうね。」

C11:「僕はプラスバンドクラブで、クラブの時間以外にもできるだけ同じパートの下級生と練習して、教えてあげようとしています。」(以下、略)

出された意見は板書し、それを見ながら個人目標を自己決定できるようにする。

〔事後指導〕

1 目標の実現に向けた日々の取組

C21:「今週は、交通指導員さんに毎日あいさつができてよかったです。だいぶ緊張しなくなったので、これからはもっと大きな声であいさつしてみようと思います。」

C22:「この間の日曜日、サッカーチームの練習の後、校庭の石やゴミを拾ってみたら、下級生と一緒に拾ってくれました。」

2 目標の振り返り

教師:「目標を決めてから2週間が経ちました。自分の目標に向けてどれくらい取り組めたか、カードをもとに振り返ってみましょう。」

C23:「私は、朝の清掃活動の時に、自分から汚いところがないか探して清掃をすることができました。工夫して清掃をしたら、とても気分がよくなりました。」

C24:「僕は、昼休みには毎日1年生と遊ぶという目標を立てましたが、委員会の仕事もあり、できたのは半分くらいでした。」

教師:「取り組んでみて、目標が合わなかった人は、目標を修正してみましょう。」

3 活動の継続と取組の紹介

教師:「学級通信に授業の様子だけでなく、みんながどんなことに取り組んでいるのかを紹介するコーナーをつくりました。保護者の方にもぜひ見てもらってください。」

保護者:「あら、最近、家でもよくあいさつをするようになったけど、学校でこんなふう頑張っているのね。家でも応援しましょう。」

・自分で立てた目標の到達に向けて努力を積み重ねる活動を通して、自己指導能力の育成を図っていく。
・実践して目標を修正することもありうるので、活動が継続できるように、指導をしていく。

実践を振り返る機会を設け、取組を継続させることができるようにする。

・実践意欲が高まるよう、また一人一人のがんばりを学級全体で支えられるよう、学級通信などを通して紹介するのよ。

